



若手研だより

高岡市教育センター
令和6年12月13日

「若手教員研修会」は、4・5年次の教員57名が参加し、全5回実施しました。子供理解、危機管理、学習指導等、様々なテーマを設定し、若手教員の資質や実践的指導力の向上を目指しました。全5回の研修の様子をまとめて紹介します。

◇第1回 5月29日(水) 戸出コミュニティセンター

指導講話「今求められる、発想の転換～憧れのミドルリーダーを目指して～」

講師：高岡市教育委員会 参与 鳥内 禎久 先生



開講式に続き、高岡市教育委員会 鳥内 禎久 参与からご講演いただきました。学校現場が抱える課題や目指す教師像に近づくための取組等について、具体的な場面を通して考える機会となり、受講者はさらに自分を磨き向上していこうという思いを強くしました。

【感想より】

- ・子供たちの心の内に抱えている思いに寄り添える教師であるためには、日頃から一人一人をよく観察し、コミュニケーションをとることがとても大切だと感じた。アンテナを高くもち、些細な変化を見逃さないようにしていきたい。また、5年次として学級だけでなく、学校全体のことも考えながら日々の学校運営についても考えていく必要を感じた。先輩方の生徒指導の仕方や授業、学級経営から多くを学び、自分の学級の子供たちに還していけるよう努めたい。
- ・「生徒の思いを形にする、その思いを次につなげる」という言葉が印象に残った。授業、学級活動、行事、どの場面においても、生徒の考えを丁寧に聞きながら関わっていききたいと思う。また、だめなことはだめと叱ることが大事だが、その際の伝え方や言い方、気付かせ方を工夫し、生徒自身が自ら考えて次に活かしたいと思えるような手立てを、これからも考えていきたい。

◇第2回 7月26日(金) 伏木コミュニティセンター



講演 「主体的 対話的 探究的な学び」

講師：富山大学大学院 教職実践開発研究科 教授 林 誠一 先生

富山大学大学院教職実践開発研究科の林 誠一 教授をお招きし、ご講演いただきました。演習では、受講者は、グループで考えを出し合い、課題を解決していく過程を通して様々な考えに触れ、協働的に学ぶ意義を体感することができました。そして、子供たちにもこの学びの楽しさを味わわせたいという思いを抱く時間となりました。

【感想より】

- ・主体的・対話的・探究的な学びというのは日々よく聞くことはあったが、イメージが明確にもてておらず、どうしたらいいのかわ信がなかった。しかし、今回の研修で実際に自分で体験して他の人の意見を聞くことで自分になかった視点を取り入れることのよさや、自分事として解決策を考えることの大切さを実感できた。対話的・探究的な学びとはどのようにするのか、どんなよさがあるのかを掘むことができ、今後の授業づくりに生かしたいと思った。
- ・生徒と向き合う中で、また学校で過ごす中で課題ばかり探すのではなく、よさをたくさん見つけていけるようにしたいと思った。問題把握、課題の設定、それに対する対策、どのような場面でもこのように道筋をつけて考えること、考えを整理することが大切だと感じた。



◇第3回 8月7日(水) 伏木コミュニティセンター

指導講話「学校の危機管理について」

講師：高岡市教育委員会 学校教育課 主幹 浅生 昭夫 先生

危機管理をテーマに、高岡市教育委員会 浅生 昭夫 主幹から、ご指導いただきました。学校における危機管理や職務・サービスに関わる危機について、グループ協議を交えながら、様々な事例を通して考える機会となりました。



【感想より】

- 今日の研修では小学校の先生と協議することで、校種の違いによる発想の違いや視点の違いを知り、自分の知見を広げることができたように感じた。また、実際のトラブル例を基に対策を協議する場面では、実際自分のクラスでこのようなことが起こった場合どのように対応すべきかイメージしながら考えることができた。小学校の例だったので、そんなことから教えないといけないのかと驚くことが多々あり、小学校の先生の大変さを痛感した。後半では教員の不祥事についていろいろな事案を聞き、自分の行動を振り返るよいきっかけになった。
- 他の学校における危機管理の取組や過去の事例を知り、子供たちが安心して学校生活を過ごすために、これまで以上に気を引き締めて防止や対策に努めたいと思う。また、懲戒処分等について、私が知っていた情報は断片的だったので、今回詳しく知ることができてよかった。教育公務員としての信頼を裏切ることがないように、今後も気を付けたいと思う。
- 「危機管理」は学校環境、学校生活、通学等、学校に関わるあらゆる場面で大切になってくると改めて感じた。



◇第4回 A班 9月25日(水) 高岡市立伏木小学校

示範授業(小学校・道徳科)

主 題 名：「心を一つに」[B-(9)友情、信頼]

教 材 名：「祭り日」

(出典：光文書院「小学 道徳 ゆたかな心 4年」)

授 業 者：高岡市立伏木小学校 教諭 中村 泰知 先生

アドバイザー：高岡市教科指導員



第4回A班では、伏木小学校の中村 泰知 先生による示範授業を参観させていただきました。先生は子供たちに肯定的な言葉かけをしておられ、温かい雰囲気の中で、どの子供も意欲的に発言している姿が印象的でした。協議会では、ねらいとする道徳的価値について考えている子供の姿や効果的だった教師の手立てを視点を話し合いました。また、ともすると、話し合いが学活のようになってしまうという若手の教員の悩みにも、先生ご自身が授業で大事にしておられることを教えてくださいました。

【感想より】

- 多くの児童が積極的に手を挙げ、発表する姿が印象的だった。児童が発言しやすい雰囲気や優しく受け止めてもらえるという安心感あふれる学級づくりが基盤となっていると思った。
- 子供たちがねらいに向かって真剣に話し合う姿に、日頃の学級経営がいかに大切かということを感じた。道徳的価値について自分事として捉えて、話し合うための手立てを改めて知ることができた。今後の授業で生かしていきたいと思う。
- 先生はいかに道徳的価値に迫ることができるか、学習課題ひとつとっても悩まれている、教材に対して真摯に向き合う大切さを改めて感じた。
- ねらいをしっかりとつとめようという姿勢やねらいに向かった発問の吟味、発言に対する切り返し、問い返しの大切さを学んだ。



◇第4回 B班 9月26日(木) 高岡市立高岡西部中学校

示範授業(中学校・道徳科)

主 題 名 : 「心の弱さを乗り越えるために」
[D-(22)よりよく生きる喜び]

教 材 名 : 「銀色のシャープペンシル」
(出典:東京書籍「新しい道徳2」)

授 業 者 : 高岡市立高岡西部中学校 教諭 老田 皆実 先生
アドバイザー: 高岡市教科指導員



第4回B班では、高岡西部中学校の老田 皆実 先生の示範授業を参観させていただきました。先生は、終始、笑顔で明るく生徒と関わり、一人一人の考えを把握して授業を進めておられました。話し合いでは、生徒が様々な考えや思いを本音で語ったり、つぶやいたりするなど自分事として考えている姿が印象的でした。協議会では活発に意見が交わされました。受講者から、本時の教師の手立てについて様々な質問があり、老田先生は丁寧に教えてくださいました。

【感想より】



- 自分の授業を改善するための手がかりをたくさん得ることができた。ネームプレートの活用、板書の工夫、考えの引き出し方、学級経営の在り方等、本当に学びになった。
- 「心の弱さ」について生徒に気付かせ、それを乗り越えようとする態度を育てるというねらいが明確な授業であり、生徒が生き生きと考え議論する姿が印象的だった。
- 先生が日頃から生徒をよく見て、温かい声かけをしていることが授業から伝わってきた。机間指導やペア学習等、小学校でも活用できることが多くあった。

◇第5回 A班 11月13日(水) 高岡市立五位小学校

若手研究授業(小学校・道徳科)

主 題 名 : 「正直な心で」[A-(2) 正直、誠実]

教 材 名 : 「ぼくはMVP」
(出典:光文書院「小学 道徳 ゆたかな心 4年」)

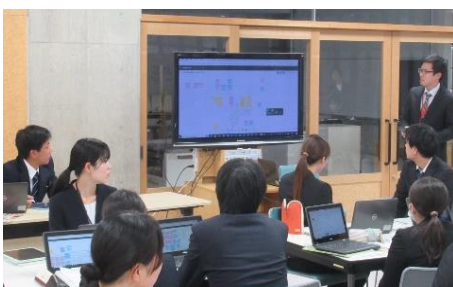
授 業 者 : 高岡市立五位小学校 教諭 中居 竜汰 先生
指導助言者: 高岡市立野村小学校 教頭 平 紀子 先生
アドバイザー: 高岡市教科指導員



第5回A班は、五位小学校の中居 竜汰 先生が「正直、誠実」について考える授業を提案しました。導入で本時に関わるアンケート結果を提示したり、「心の数直線」を板書に位置付けたりするなど、主人公の葛藤を自分事として捉える工夫がなされ、子供たちは活発に話し合いました。協議会では、子供の姿や教師の手立て、自分ならどう授業するかなど、意見を交わしました。指導助言では、道徳性を養うために行う授業において大切なことを具体的な場面を基に分かりやすく教えていただきました。

【感想より】

- 問い返しのタイミング、価値項目からずれないように立ち止まったり、広げたりする必要性を学ぶことができた。自分の授業にも生かしていきたい。
- 子供たちの素直に意見を伝え合う姿が印象的で、日頃の学級経営が学習指導に活かされていることを改めて感じた。授業を通して、十分な実態把握を土台とした導入の在り方や、自分の立場を位置付ける板書の工夫など、たくさんのことを学ばせていただいた。
- 昨年「正直・誠実」の授業をしたときに、話がずれやすく価値に近付くのが難しく苦戦していたことを思い出した。先生の教室は、本音で語る関係性ができていると感じた。子供たちが生き生きとしていて、考えるのが楽しいということが伝わってきた。



◇第5回 B班 11月19日(火) 高岡市立福岡中学校

若手研究授業(中学校・道徳科)

主 題 名: 「自分を信じて生きるとは……」

[D-(22) よりよく生きる喜び]

教 材 名: 「本当の私」(出典: 東京書籍「新しい道徳2」)

授 業 者: 高岡市立福岡中学校 教諭 加藤 稲子 先生

指導助言者: 高岡市立戸出中学校 教頭 北村 陽一 先生

アドバイザー: 高岡市教科指導員



第5回B班では、福岡中学校の加藤教諭が「よりよく生きる喜び」についての授業を提案しました。授業では、本時に関わるアンケートを生かした導入をされ、生徒は自分事として考える姿が見られました。協議会では、生徒が主体的に考えるための手立て等について、意見交換がなされました。指導助言では、道徳的価値をしっかりと把握すること、小中の違いや発達段階を考慮して授業を仕組むこと等、具体的な授業場面を通して、教えていただきました。

【感想より】

- 道徳科において自分事として考えさせる大切さを改めて感じた。導入で生徒にとって身近な話題のアンケートを活用したり、本音を引き出す問い返しをしたりする先生の姿から具体的な手立てを学ぶことができた。



- 初めて中学校の授業を参観した。中学校の扱う教材の重みや指導の難しさを感じた。子供たちは一生懸命考え、つぶやき、温かい雰囲気があった。
- 小学校と中学校では、発達段階に応じて学ぶ道徳的価値の違いを感じた。アンケートをとり、生徒が自分事として考え、自分の気持ちを明確にする活動を取り入れているのを見て、「自分に置き換えて考える」ことが大切なことだと改めて感じた。発問を吟味して、鋭い問い返しができるよう、今後も教材研究をしていきたいと思う。

今年度の「若手教員研修会」を終えて

若手教員研修会では、先生方のアンケートに挙げられた学級づくりや授業づくり、危機管理等に関する悩みや知りたいことについて、講師の先生方とも共有して研修を実施しました。全5回の研修すべてにおいてグループ協議の場を設定し、テーマに合わせてグループを同じ校種にしたり、異校種混合にしたりしました。多様な価値観に触れ、多面的・多角的に考える機会となるとともに、若手教員同士のコミュニケーションづくりの一助になっていましたら幸いです。

また、第4回・5回研修では、高岡市教科指導員の先生方にもアドバイザーとして入っていただきました。若手教員と年齢が近いので、相談しやすかったようで悩みや疑問に的確に答えていただきました。

今後も、先生方が主体的に学び、学級づくりや授業づくり、今日的な課題への対応等、自分の引き出しを増やし、教員としての資質向上を図ることができるような研修を工夫していきたいと思えます。

若手教員研修会を実施するにあたり、講師や指導助言者、示範授業者、アドバイザーとしてご指導くださった皆様、会場を提供してくださった学校の皆様、そして、若手教員を研修に送り出してくださいました勤務校の皆様にご感謝申し上げます。

